

第3編 資料編

1 児童生徒の問題行動等の実態

本道公立学校の平成14年度児童生徒の問題行動等の状況は次のとおりである。

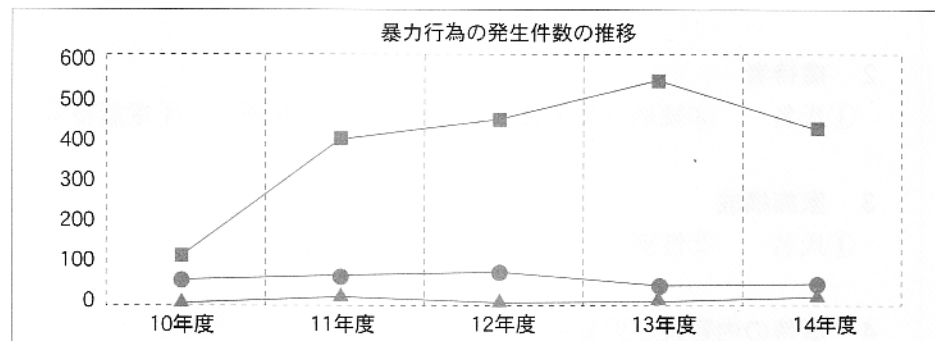
[道内調査学校数] <内訳>

2,560校 小 学 校 1,490校 中学校 729校
 高等学校 281校 特殊教育諸学校 60校

(1) 暴力行為の状況

◇発生件数

▲ 小 学 校
 ■ 中 学 校
 ● 高 等 学 校



	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
小 学 校	0 件	6 件	0 件	1 件	5 件
中 学 校	1 1 0 件	4 0 0 件	4 5 9 件	5 4 8 件	4 3 0 件
高 等 学 校	5 7 件	6 4 件	7 0 件	3 4 件	5 0 件

◇平成14年度の対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損壊の状況

区 分	発生学校数 (前年度)	発生件数 (前年度)
対教師暴力	小 学 校 1 校 (0 校)	1 件 (0 件)
	中 学 校 2 5 校 (2 1 校)	4 9 件 (3 5 件)
	高等学校 3 校 (0 校)	3 件 (0 件)
	合 計 2 9 校 (2 1 校)	5 3 件 (3 5 件)
生徒間暴力	小 学 校 0 校 (0 校)	0 件 (0 件)
	中 学 校 7 2 校 (6 9 校)	1 4 9 件 (1 3 3 件)
	高等学校 2 8 校 (2 2 校)	3 0 件 (2 5 件)
	合 計 1 0 0 校 (9 1 校)	1 7 9 件 (1 5 8 件)
対 人 暴 力	小 学 校 1 校 (0 校)	1 件 (0 件)
	中 学 校 1 1 校 (2 1 校)	2 0 件 (3 4 件)
	高等学校 1 9 校 (1 7 校)	1 6 件 (9 件)
	合 計 3 1 校 (3 8 校)	3 7 件 (4 3 件)
器 物 損 壊	小 学 校 3 校 (1 校)	3 件 (1 件)
	中 学 校 3 5 校 (5 1 校)	2 1 2 件 (3 4 6 件)
	高等学校 1 校 (0 校)	1 件 (0 件)
	合 計 3 9 校 (5 2 校)	2 1 6 件 (3 4 7 件)

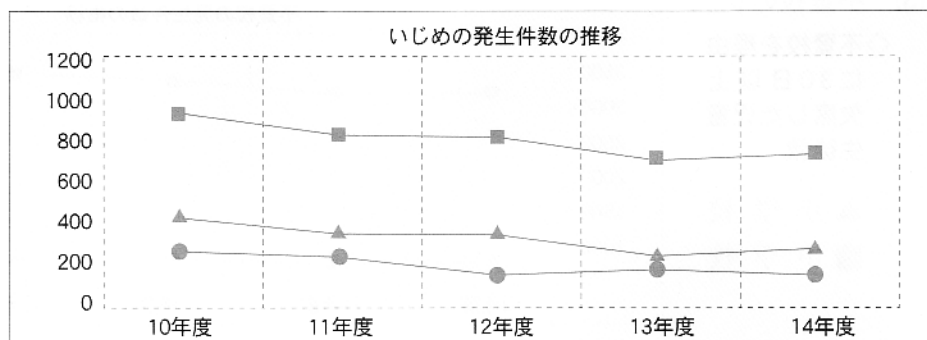
◆暴力行為への効果的な対応

- ・見過ごすことなく、毅然とした態度で対応すること
- ・保護者、PTA、地域社会などとの密接な連携を図ること
- ・学校だけで抱え込まず、問題の状況に応じて児童相談所や警察など、関係機関等との密接な連携を図った指導を行うこと

(2) いじめの状況

◇発生件数

- ▲ 小学校
- 中学校
- 高等学校



	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
小学校	435	359	358	256	290
中学校	939	857	856	743	754
高等学校	223	216	147	165	147

◇いじめの発見のきっかけ (上段が14年度、下段が13年度)

小学校	①いじめられた児童の訴え	38.3%	②保護者からの訴え	32.4%	③担任の教師が発見	19.0%
	①保護者からの訴え	30.7%	②担任の教師が発見	27.1%	③いじめられた児童の訴え	17.6%
中学校	①いじめられた児童の訴え	31.7%	②保護者からの訴え	22.0%	③担任の教師が発見	21.5%
	①いじめられた児童の訴え	34.0%	②担任の教師が発見	20.0%	③保護者からの訴え	19.5%
高等学校	①いじめられた生徒の訴え	56.5%	②他の生徒からの訴え	10.2%	③保護者からの訴え	9.5%
	①いじめられた生徒の訴え	40.1%	②担任の教師が発見	18.4%	③保護者からの訴え	17.0%

* 9項目から複数回答したもののうち、上位3項目

* その他の項目としては、「他の教師からの情報」「養護教諭からの情報」「スクールカウンセラー、心の教室相談員等からの情報」「教育センター等関係機関からの情報」「その他」

◇いじめの態様 (上段が14年度、下段が13年度)

小学校	①冷やか・からかい	24.9%	①言葉での脅し	24.9%	③仲間はずれ	18.4%
	①冷やか・からかい	26.9%	②仲間はずれ	20.3%	③言葉での脅し	16.4%
中学校	①冷やか・からかい	34.5%	②仲間はずれ	18.5%	③言葉での脅し	16.4%
	①冷やか・からかい	29.3%	②言葉での脅し	22.2%	③仲間はずれ	14.3%
高等学校	①冷やか・からかい	28.1%	②暴力を振るう	22.6%	③言葉での脅し	16.7%
	①暴力を振るう	29.2%	②冷やか・からかい	23.7%	③言葉での脅し	18.3%

* 9項目から複数回答したもののうち、上位3項目

* その他の項目としては、「持ち物隠し」「集団による無視」「たかり」「お節介親切の押しつけ」「その他」

◇平成14年度のいじめの解消状況 (いじめが解消しているか、継続中で現在指導中かの二者択一)

小学校	91.7% (90.2%)
中学校	87.5% (89.4%)
高等学校	91.2% (96.4%)

* () は13年度の数値

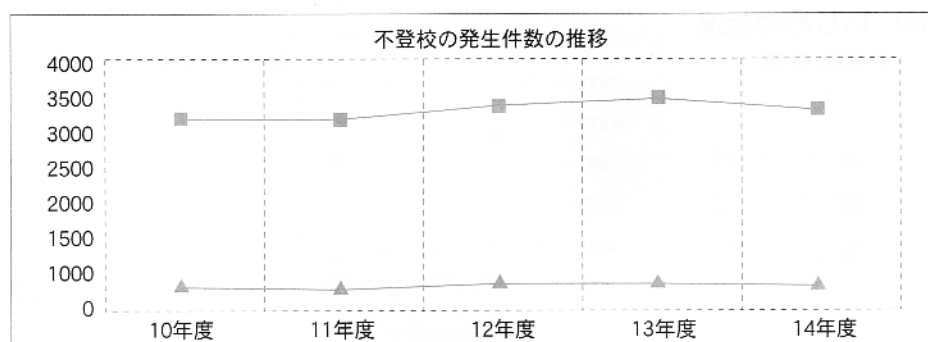
◆いじめへの効果的な対応

- ・ 早期発見・早期対応に努めること
- ・ 「いじめは絶対許されない」という毅然とした態度で対応すること
- ・ 子どもの悩みやストレスを受け止める教育相談体制を充実させること
- ・ 学校、家庭、地域社会が一体となった取組を進めること

(3) 不登校の状況

◇不登校を理由に30日以上欠席した児童生徒数

▲ 小学校
■ 中学校



	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
小学校	856	841	864	886	840
中学校	3,277	3,173	3,474	3,588	3,339

[以下平成14年度の不登校児童生徒について]

◇不登校になった直接のきっかけ * () は13年度の数値

小	①本人にかかわる問題	28.9% (33.3%)	中	①本人にかかわる問題	31.7% (28.6%)
学	②親子関係をめぐる問題	13.2% (9.9%)	学	②友人関係をめぐる問題	22.0% (21.8%)
校	③友人関係をめぐる問題	13.2% (11.1%)	校	③学業の不振	8.7% (8.2%)

*13項目から主たるきっかけを一つ選び、回答したもののうち、上位3項目を掲載

*その他の項目としては、「教師との関係をめぐる問題」「クラブ活動、部活動等への不適応」「学校のきまり等をめぐる問題」「入学、転編入学、進級時の不適応」「家庭の生活環境の急激な変化」「親子関係をめぐる問題」「家庭内の不和」「病気による欠席」「その他」「不明」

*「本人にかかわる問題」は、極度の不安や緊張、無気力等で、他に特に直接のきっかけとなるような事柄がみあたらないもの

◇不登校が継続している理由 * () は13年度の数値

小	①複合	30.6% (29.3%)	中	①無気力	24.4% (23.3%)
学	②不安など情緒的混乱	28.1% (28.3%)	学	②不安など情緒的混乱	24.2% (22.9%)
校	③無気力	18.6% (18.5%)	校	③複合	23.3% (23.5%)

*7項目から主たる理由を一つ選び、回答したものうち、上位3項目を掲載

*その他の項目としては、「学校生活上の影響」「あそび・非行型」「意図的な拒否」「その他」

◇不登校児童生徒への指導結果の状況 * () は13年度の数値

区 分	小 学 生	中 学 生
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	228人(275人)27.1%(31.0%)	783人(913人)23.5%(25.4%)
指導中の児童生徒	612人(611人)	2,556人(2,675人)
うち登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	154人(136人)	631人(724人)
計	840人(886人)	3,339人(3,588人)

◇指導の結果登校する又は登校できるようになった児童生徒に、特に効果のあった小・中学校の措置

- ①家庭訪問を行い、学業や生活面での相談に乗るなど様々な指導・援助を行った。
- ②登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。
- ③保護者の協力を求めて家族関係や家庭生活の改善を図った。

*16項目から複数回答したものうち、上位3項目を掲載

*その他の項目としては、「研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。」「スクールカウンセラー、心の教室相談員等が専門的に相談にあたった」「保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった」など

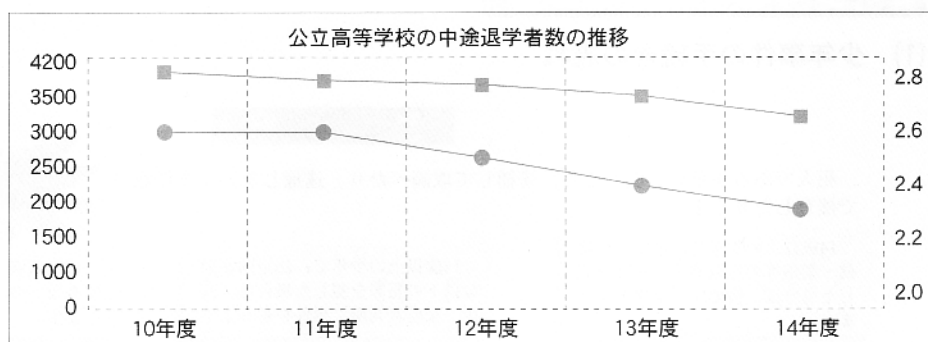
◆不登校への効果的な対応

- ・日頃から、家庭との連携を密接に図ること
- ・不登校を「どの子どもにも起こり得る」、「学校、家庭、関係機関、本人の努力等によって、かなりの部分が改善できる」と認識し、対応すること
- ・一人で悩むことなく、関係機関等、多くの人の力を借りて解決策を検討すること

(4) 公立高等学校の中途退学の状況

◇中途退学者数
及び中途退学
率

■ 中途退学者数
● 中途退学率

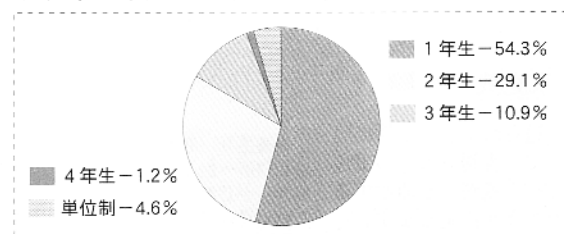


	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
中 途 退 学 者 数	4,020人	3,869人	3,776人	3,513人	3,287人
中途退学率(中途退学者数/全生徒数×100)	2.6%	2.6%	2.5%	2.4%	2.3%

◇平成14年度の学年別中途退学者数

	中途退学者数	中 退 率
1 年 生	1,784人	3.9%
2 年 生	955人	2.1%
3 年 生	358人	0.8%
4 年 生	39人	3.8%
単 位 制	151人	5.5%

◇学年別中途退学者の割合



*単位制には総合学科を含む

◇平成14年度の事由別中途退学者数

中 途 退 学 の 事 由	中途退学者数	構 成 比
①学校生活・学業不適応	1,382人 (1,317人)	42.0% (37.5%)
②進路変更	1,133人 (1,487人)	34.5% (42.3%)
③問題行動等	159人 (143人)	4.8% (4.1%)

*8つの大項目から主たる事由の一つを選び、回答したもののうち、上位3項目を掲載

*その他の項目としては、「学業不振」「病気・けが・死亡」「経済的理由」「家庭の事情」「その他の理由」

*「学校生活・学業不適応」の内訳としては、

- ①「もともと高校生活に熱意がない」 35.5%
- ②「人間関係がうまく保てない」 21.5%
- ③「授業に興味がない」 18.0%
- ④「学校の雰囲気があわない」 11.8%
- ⑤「その他」 13.2%

*「進路変更」の内訳としては、

- ①「就職を希望」 63.8%
- ②「別の高校への入学を希望」 17.3%
- ③「大学検定試験受験を希望」 6.0%
- ④「専修・各種学校への入学の希望」 5.6%
- ⑤「その他」 7.3%

◆中途退学への防止に効果的な対応

- ・高等学校と中学校との連携を密にして、中学生の体験入学を実施するなど、生徒の入学への目的意識や就学意欲の向上に努めること
- ・高等学校における教育相談体制やホームルームでの指導体制を整備し、入学後の早い時期から個人面接を実施したり、ガイダンスの機能を生かした指導の充実を努めること
- ・教育課程の工夫・改善を図り、分かる授業や特別活動の充実などを行い、生徒にとって一層魅力ある学校づくりに努めること